**キャンプファイヤー・キャンドルのい　共通台本**

**【１部】**

１．入場・整列

２　初めの言葉

火の司

※必ず全員が静かになっていることを確認してから始めましょう。

「ただいまより、キャンプファイヤー（キャンドルの集い）を始めます。この自然豊かな英彦山で、みんなで力を合わせ、楽しい時間を作り上げていきましょう。」（）

３　歌

火の司

「まずは、みなさん、しばらく目を閉じ、自然の音に耳を傾けてみて下さい。（３０秒）。・・・・・・・・・・・・・目を開けてください。静けさの中に、自然や生き物の力強さを感じますね。この豊かな自然に囲まれた青年の家も、だんだんとにまれてきました。の静けさを感じながら、『遠き山に日は落ちて』を歌いましょう。」（曲は１番のみでもいいです。）（係はＣＤ１番を流す。）

４　火の神入場

火の司

「この英彦山の奥深くには、か昔より、火の神が住んでいらっしゃいます。火の神は、特別な時にだけ山をり、人に火をおりくださいます。今日は、みなさんのために火の神が英彦山を下り、なる火を運んできてくださるそうです。そのかい火は、きっと私たちを明るくき上がらせてくれるでしょう。みなさんは火の神がたずさえるなる火にご注目ください。火の神のです。」→（係はＣＤ２番を流す。）火の神は火の守の周りを一周する。

火の司

（音響係はＣＤをとめる）

「英彦山のくより、火の神がなる火をえておしになりました。ここで火の神よりお言葉をいただきます。」

火の神

（暗記ではなく、原稿を読む場合は、照明係にトーチを手渡し、明かりで照らしてもらうとよいです。）

「は、みなさんのために英彦山の奥深くより、聖なる火をえてまいりました。この聖なる火をもう一度、静かに見つめてください。（１５秒程）

火は、多くの生き物の中で、人間だけに与えられた宝物です。

と燃えるこの火は、もりを与えてくれる愛情のです。

赤々と燃えるこの火は、暗やみを明るくらす希望の源です。

赤々と燃えるこの火は、食をおいしくする命の源です。

は、みなさんが仲間と協力し、楽しい時間を過ごすことを願い、この火をみなさんに特別、分け与えましょう。」

５　といの言葉

火の司

「ありがとうございました。それでは、火の神より、聖なる火を分けていただきます。みなさんはいただいた火に、いの言葉を立ててください。聖なる火の分火。」（火の神は順に火の守へ分火していく。分火してもらった火の守は、誓いの言葉を伝える。火の守１へ分火→誓いの言葉　→　火の守２へ分火→誓いの言葉　→・・・と続いていく。誓いの言葉は参加者で考えた方がいいですが、別紙を参考にしても構いません。火の神は分火をするときに、セリフを加えてもいいです。）

火の守が誓いの言葉を言った後、参加者全員でするのもよいでしょう。

６　点火

火の司

「火の神により、火の守への分火が終わりました。ただいまより点火を行います。火の神と火の守は中央に集まり、同時に点火してください。聖なる火の点火。」（音響係はＣＤ３番を流す）（キャンプファイヤーは、火どこへトーチを差し込み、点火する。キャンドルの集いは、火がついたトーチのろうそくをに差し込む。ただし、火の神は燭台の太いろうそくに火を移すのみで、トーチのろうそくはそのまま持っておく。）

７　詩の朗読

火の守

（音響係はＣＤをとめる）

「見事に聖なる火が燃え始めました。この炎を見つめ、詩のを行います。詩の朗読。」

献詩（詩は全員で読むのもよいでしょう。）

【は燃える】

営火は燃える　と燃え　まっすぐに燃え　勇気を出せとます

営火は燃える　ゆらゆらと燃え　くように燃え　豊かであれと励ます

営火は燃える　るように燃え　うように燃え　輪を広げようと励ます

私たちを支える営火の火は　いつまでもを照らし　今が本番だと教える

人生には　リハーサルがないと教える

私たちはいつまでも　この火を見つめる

８　歌

火の司

「ありがとうございました。さあ、聖なる火が強くめました。この火を見つめながら『燃えろよ燃えろ』を歌いましょう。」（音響係はＣＤ４番を流す。）」

９　火の神退場

火の司

「火が赤々と燃えたところで、聖なる火を運んでくださった火の神が一度退場します。火の神退場。」→火の神は退場する。（火の神はセリフを加えて退場してもいいです。）

（音響係はＣＤ５番を流す。退場が終わったらＣＤを止める。）

火の司

「この聖なる火は私たちの友情の火です。しばらくこの火を見つめましょう（１５秒程）。それでは、赤々と燃えるこの火を囲み、第２部に入ります。第2部の司会の人、お願いします。（２部の司会と交代する。）

※キャンドルの集いは、会場の照明をつける。（つけなくてもよい）

【２部】

※２部は、レクリエーションやスタンツ、ダンス、歌、グループの出し物などで大いに盛り上がりましょう。

※キャンドルの集いは、３部が始まる前に会場の照明を消す。

【３部】

火の司

１０　火の神入場

これから第３部を始めます。楽しいキャンプファイヤー（キャンドルの集い）も終わりに近づいてきました。再び火の神が入場します。みなさんご注目ください。火の神入場。

（音響係はＣＤ６番を流す。入場が終わったらＣＤを止める。）

※キャンドルの集いのみ　　を行う。

火の司

「みなさんが誓いをたてたこの火を、火の神の力を借りて英彦山の森の中へ返します。火の神、お願いします。」係はＣＤ７番を流す。終わり次第ＣＤをとめる。）火の神が燭台の火を消していく。

１１　詩の朗読

火の司

「あんなに力強く燃えていた火も小さくなってしまいました。私たちを明るく照らし、楽しい時間を与えてくれた火に、そしてみなさん一人ひとりに感謝の気持ちを込めて、詩の朗読を行います。詩の朗読」

献詩（詩は全員で読むのもよいでしょう。）

【あたりまえのことを】

あたりまえのことを　あたりまえにやれて

あたりまえのことを　感動できる人になりたい

あたりまえのことを　あたりまえにやることが　おろそかになっては　いないだろうか

あたりまえのことに　感動できなくて　強いのみを　追ってはいないだろうか

人間は人間らしくあるという　あたりまのことを　大切にしたい

１２　火の神の言葉

火の司

では、最後に火の神より終わりの言葉をいただきます。

火の神（原稿を読む場合は、照明係に原稿を照らしてもらうとよいです。）

あんなに赤々と燃えていた火も、今は静かに大地へ返ろうとしています。しかし、みなさんの胸の中には赤々と燃える火が、今もきっと燃えているはずです。この火がいつまでもみなさんの心に灯され、友情や希望の火として明るく輝き続けることを願い続けます。これから先、苦しいこと、しいこと、悲しいことがあった時には、この火を思い出し、力強く生きてください。また、会える日を楽しみにしています。

１３　歌

火の司

ありがとうございました。この集いを振り返り、みんなの心を一つにして『今日の日はさよなら』を歌いましょう。（音響係はＣＤ８番を流す。）」

１４　火の神退場

火の司

それでは、火の神が英彦山の森へ帰られます。みなさん最後まで見送ってください。火の神退場。（音響係はＣＤ９番を流す。）」

→火の神は火の守の周りを一周して退場する。セリフを加えてもいいです。

（退場が終わり次第、音響係はＣＤを止める。）

１５　終わりの言葉

火の司

キャンプファイヤー（キャンドルの集い）も終わりを迎えました。この集いでいた友情を明日からの生活の中に生かしてください。これからもみんなが１つにまとまり、成長していくことをいながら、キャンプファイヤー（キャンドルの集い）を終わります。ありがとうございました。（）

**火の守の誓いの言葉の例（自分たちで考える方が望ましいです。）**

友情の火：私たちは、友と力を合わせ、友情を大切にすることを誓います。

希望の火：私たちは、希望の心を大切にし、いつまでも前につき進むことを誓

います。

勇気の火：私たちは、勇気をもち、正しい心で立ち向かうことを誓います。

努力の火：私たちは、目標をもって、自分を高め続けることを誓います。

情熱の火：私たちは、炎のように、熱く強く情熱をもち続けることを誓います。

奉仕の火：私たちは、思いやりの心をもち、人のために尽くすことを誓います。

感謝の火：私たちは、人のやさしさに感謝し、その思いを忘れないことを誓い

ます。

心の火：私たちは、人の心を理解し、心と心でつながるよう努力することを誓

います。

**隊形の例**

**火どこの周りに、火の神、火の守達が円形で並ぶ。**

**その外側に、残りの参加者が円**

参加者

火の守

火の守

火の神

火どこ

献詩

火の司

**遠き山に日は落ちて**

遠き山に　日は落ちて

星は空を　散りばめぬ

今日のわざを　なし終えて

心かろく　やすらえば

風はし　この夕べ

いざや　楽しき　まどいせん

に燃えし　かがり火は

炎　今は　しずまりて

眠れやすく　いこえよと

うごとく　消えゆけば

やすきに　守られて

いざや　楽しき　夢を見ん

夢を見ん

**燃えろよ燃えろ**

燃えろよ燃えろよ

炎よ燃えろ

火の粉を巻き上げ

天までこがせ

らせよ照らせよ

のごとく

炎よ　き

を照らせ

燃えろよ照らせよ

明るく熱く

光と熱との

もとなる炎

**今日の日はさようなら**

いつまでも　えることなく

友達でいよう

明日の日を夢見て

希望の道を

空を飛ぶ　鳥のように

自由に生きる

今日の日はさようなら

また会う日まで

信じ合うびを

大切にしよう

今日の日はさようなら

また会う日まで

また会う日まで